

会議録（要点筆記）

会 議 名	令和元年度 第4回米原市社会教育委員会議
開 催 日 時	令和2年3月25日（水） 午後7時30分～午後9時00分
開 催 場 所	米原市民交流プラザ 1階健康ルーム
出 席 者 （敬称略、順不同）	<p>&lt;出席者&gt;</p> <p>大谷 章 委員長、上田 洋平 副委員長、中西 太、塚田 多佳子、谷口 嘉之、北澤 あさこ、田中 理華、田中 一郎、西林 正夫</p> <p>&lt;欠席者&gt;</p> <p>谷口 絹代、一ノ宮 賢了、富田 正子</p> <p>&lt;事務局出席者（生涯学習課）&gt;</p> <p>梶田課長、堀課長補佐、澤主幹、田野主任、田中主事</p>
協議事項	<p>テーマ「コミュニティ・スクール（地域と学校のかかわり、次世代の育成）」の今後の進め方等について（ワークショップ形式）</p> <p>①コミュニティ・スクールの課題は何か（大事にしたいことを含めて）</p> <p>②コミュニティ・スクールについて、社会教育委員として取り組むことについて</p>
結論（決定した方針等）	議事録のとおり
協議経過 （主な質問、意見）	<p>1 開会（委員長よりあいさつ）</p> <p>今度検討する課題の方向性について、ワークショップ形式で検討したい。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、至近距離での会話を避け、距離を置いた各々の席で発言する。）</p> <p>2. 協議事項</p> <p>①コミュニティ・スクールの課題は何か（大事にしたいことを含めて）</p> <p>委員： ①地域人材（特色のある人材）の見える化、②学校教育者の負担をどう解消するか、③保護者の理解度が不明</p> <p>委員： ①持続可能な形でサポートできる人材の確保と可視化、②学校と地域のニーズにミスマッチングがあるのではないかと、③地域コーディネーターの支援</p> <p>委員： ①関わる大人の質・量の拡大が必要、②地域の子どもたちに学校以外の教育を教えたいという関心が低いのではないかと</p> <p>委員： ①文化芸術的な学びが少ないため、子どもたちが優れた文化芸術に触れられる機会が必要ではないかと</p> <p>委員： ①地域資源を学校のために消費してしまわないかと（持続的に活動できる仕組みが必要）、②人を手段化しない経済の構築、③見える成果に拘らず試すべきアイデアの抽出と実行が大切ではないかと</p> <p>委員： ①コミュニティ・スクールの認知度が低い、②どのような内容でど</p>

んな人材が必要なのか分からない

**委員：** ①来年度から市内全ての学校にコミュニティ・スクールの設置が始まるが、コミュニティ・スクールの認知度が低いと思われる、②地域全体で子どもを育てるという認識が低いのではないかと、③学校教育に参画できる人材情報が少ない

**委員：** ①ボランティアに関わる人が限られている、②コミュニティ・スクールの敷居が高く感じる（スクールと聞くと遠慮してしまう人が多いのではないかと）、③学校教員の意識に温度差があるのではないかと

**委員：** ①コミュニティ・スクールの関心が低い、②活動費や謝礼をある程度確保する必要がある、③ボランティアの人数が少ない

<各意見のグルーピング結果>

- ・人材確保
- ・学校、地域のニーズ（シーズ）の不一致
- ・認知度の低さ
- ・教職員の負担

②コミュニティ・スクールについて、社会教育委員として取り組むことについて

**委員：** ①学校や地域ニーズにあった人材紹介、②コミュニティ・スクールをわかりやすく紹介、③学校・地域・保護者・子ども・社会教育委員の思いを聞く

**委員：** ①実効性のある（マッチング機能のある）人材バンク構築、②教育資源のリスト化、③現状分析や他府県の事例調査、④市内外の企業とのパートナーシップ構築（資金を含め、求められるニーズを提供）、④教職員やコーディネーターのために社会見学等の企画

**委員：** ①ニーズ調査、②地域活動をしている団体への資金的援助の充実、③コミュニティ・スクールのさらなる情報発信

**委員：** ①講習や見学を通してコミュニティ・スクールについて学ぶ、②学校・地域・子供・保護者の想いを文章化

**委員：** ①市内各校の取り組みを知る、市外の先進的取り組みを学ぶ、②教育の枠に囚われないアイデアを出す

**委員：** ①人材リスト作成（コミュニティ・スクールだからではなく、人材リストは様々な場面で活用できるが、選定基準の設定をどうするか）、②目標を設定した上でコミュニティ・スクールに取り組むべきではないかと

**委員：** ①コミュニティ・スクールに関する情報発信、②地域のニーズを聞く、人材バンク作成

**委員：** ①コミュニティ・スクールに関する認知度を高める、②学校と地域間をつなぐ人をサポートする体制、③どんな人材やどんなニーズがあるのか

学ぶ

委員： ①コミュニティ・スクールの認知度を高める、②人材発掘

<各意見のグルーピング結果>

取り組みやすい	←————→	取り組みにくい
・現地視察	・人材バンク作成	・教育の枠に囚われな
・認知度の向上	・サポート体制作り	いアイデア
・研修の企画		・企業とのパートナー
・ニーズ調査		シップ

<意見>

委員： まずは、自分たちがコミュニティ・スクールについて学び、学んだことをそれぞれの地域で話すことが社会教育委員の取り組みだと思う。

委員： 人材バンクの増やし方や、人材バンクとニーズのマッチングをどう上手くするのか考えるのも遣り甲斐があると思う。

委員： まずは私たちが社会教育委員として何を提供できるのか考えるのはどうだろうか。また、地域のことが分かる教材を作成するのも良いと思う。

委員： 人材バンクといっても、学校・地域のニーズが分からない中で人材バンクは作れない。まずは、私たちがニーズ調査し、得た情報のなかで社会教育委員として何ができるのか検討すれば良いと思う。

<結論>

まずは求められるニーズなどが何であるかを学ぶことから始め、学ぶ課程で今後の具体的な取り組みや方向性を見出すことにする。

### 3. その他

現場視察として、下記研修会を御案内します。

開催日：4月11日（土）午前9時30分から午前11時30分

場 所：ルッチプラザ（ベルホール 310）

内 容：学校運営協議会の委員を対象とした研修会（実践紹介など）

### 4 閉会（副委員長よりあいさつ）

ニーズとシーズの話が出たが、発言者の意見が本当に求められていることなのか熟考しながら、今後の活動に取り組んで欲しい。

会議の公開・非公開の別	■開示 □一部開示（根拠法令等： ） □非開示（根拠法令等： ）
全部記録の有無	会議の全部記録 □有 ■無 録音テープ記録 □有 ■無
担 当 課	生涯学習課（55-8106）